

風土記の丘の花だより²⁰⁹

今、そしてこれから見られる植物(2023年10月28日)

すっかり秋になりました。そろそろ紅葉が楽しみな季節になってきました。急に冷え込んできたからでしょうか、ガマズミの実が真っ赤に色づいてきました。赤い実の中にフワフワした丸い物が混じっていることがあります。それはガマズミミケフシという虫こぶです。



きれいな白いキクが安藤塚に群生しています。これはイナカギクです。名前はなんかパツとしませんが、とてもきれいな花です。私もここにこんな大きな群生があるのを初めて知りました。イナカギクはややこしい花で、いろんな呼び方があります。でも、この呼び名を使うことが一番多く、混乱もないと思います。花びらの幅や、枚数、大きさなどは株によって様々です。葉の周りに肉眼でも見える毛がはえているので、観察してみてください。



いちばん普通の野に咲くタデ、イヌタデが咲いています。つぼみが丸くて赤いので「赤まんま」と呼ぶ人もおられるようです。一般的に「イヌ」という言葉は、役に立たないとか、無駄な



とかいう意味で、役に立たない、すなわち刺身のつまなどには使えないタデという意味です。それでは前に紹介したポントクタデと余りかわりませんね。少し湿った荒地などによく生えるタデで、これを大きくしたようなのはオオイヌタデ(写真右)です。比べてみると草丈も花も、名前の通り大きい事が分かります。



目を引く黄色い花、ツワブキも咲き始めました。つやのある大きな葉が特徴です。ツワブキもいろいろな花があります。写真は一重で、花びらの幅が広いですが、細いもの、八重咲きのものなどがあって、探してみる楽しみがあります。ツワブキを漢字で書くと「石落」だそうです。どうして石を「つわ」と読むのでしょうか？寒くなった頃から咲き始めて、花の少ない時期に私たちの目を楽しませてくれる花のひとつです。



大池の周辺などでナワシログミの花が咲き始めています。今、子どもたちにグミと言えば、例の柔らかいゼリーでもなし、飴でもなし、不思議な食感のおやつを思い浮かべるでしょうが、私たち「昔の子ども」は酸っぱいグミの実を思い出します。(世代がバレますね)昔は、多くのおやつがなかったので、マキやグミ、ザクロなどをよく食べたものです。懐かしいですね。このグミは今ごろ花が咲き、田んぼの苗代の時期に実がなるので、こんな名前です。松下